

全科協ニュース

1975年7月1日発行
(通巻第24号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内

☎ 110

TEL.822-0111 (大代)

おもな内容：◇無関心へのアプローチ（その5）山形県立博物館 大友義助 ◇昭和50年度全国科学博物館協議会理事会、総会を開催 ◇博物館における情報サービスシステムに関する試み 産業安全技術館 東海林菊夫 ◇全科協北から南から 全科協への一提言 徳島県博物館 田中正陽 ◇アジアの博物館の現状について ◇会員館園の紹介 大津市立科学館

無 関 心 へ の ア プ ロ ー チ（その5）

山形県立博物館 大友 義助

無関心層へのアプローチ。言葉としてはただの一言であるが、このための有効な策となると、ほんとうに難しい。今日博物館がおかれている状況をみると、この問題が緊急な問題であることは誰しも認めるところであるが、さればといって、すぐに有効適切な方法を打出すことも叶わず、夫々が懸命に暗中模索しているというのが実情ではなかろうか。

私事で恐縮であるが、以前私が受持った生徒(高校生)の中に、どうしても心を開かない生徒が一人いた。何をきいても殆ど答えないのである。私としてはいろいろと手を尽したつもりではあったが、ついにこの生徒の考えていることを理解することはできなかった。

二年生の夏休みの終わったあと、彼は自分で書いた手紙をもってきた。内容は休み中に、宮城県で開かれたある宗教団体の集会に参加したが、夜の野外ミーティングの折に、知っている人もなく、一人でうなだれていると、若者の一人が「ぼん」と肩をたたき、何かを話しかけてきた。それからは、次々とお互いに自分の気持を語り合うようになり、無二の親友になったというのである。以後、彼はまるで別人のように明るくなり、クラスの人気者になった。私が一年半も苦心しておお達成できなかったことを、この青年は、肩をたたき一瞬の行為によって、やってのけたのである。この蔭には、もっと深い思いやりがあったからに相違ないが、何か心のふれ合い、そのきっかけの大切さを語っているように思われてならない。

今日、博物館に対して全く関心を持っていないという人は、恐らく少数であると思われる。毎日のように自然破壊・文化財保護の問題が、わが町わが村の問題とし

て、マスコミによって報ぜられ、これに対して博物館が何等かの発言を求められたり、期待されたりしているからである。

しかし、これらの人々がある期待をもって博物館を訪れるかというとは限らない。博物館は何かいかめいところ、高尚なところ、難しいところという印象が私達の間にすら残っている。これらの印象を如何にして拭い去り、誰でも気楽に入れるところ、何か得るところがあるところというイメージを抱かせていくことも、当面の課題の一つであるように思われる。

私達の館は開館五年目の新しい博物館で、市内の人々にすら活動の状況はよく知られていない。これまでも講演会・研究会・映写会等を開いたり、特別展を催するなど、PRにつとめてきたつもりであるが、まだ市内の教員ですら、一度も入館したことがないという人に会うことがある。このような中で、今年初めて一般婦人を対象に「自然と人間」をテーマとする講座と、やや専門家層を対象にした「植物生態学講座」を開催してみたのであるが、はじめは果して幾人の人が参加してくれるか甚だ心配であった。ところが予想に反して、たちまち予定の人数をはるかに越す申込者があり、ついにはかなりの方々を断わらざるを得なかった。

ともかく、このように博物館に何かを求めようとする人々が多くいるのである。ただ、そのきっかけが得られないために、大部分の人が結局は訪れないという結果をもたらしているように思われるのである。無関心層というよりも、これらの人々に、あらゆる機会をとらえて、そのきっかけを作り出し、それをつかんで貰うことが、より大切なのではないだろうか。いわば潜在的な入館希

望者を如何にして現実の入館者たらしめるかが課題であると思われる。

このために、それぞれの館がさまざまな試みを、敢えて実行してみたかどうか、博物館という既成の観

念にこだわらずに、見えや外聞をすてて、地域の人々とともに問題の所在を考え、その正しい解決の方向を模索する姿勢が大切なのではないだろうか。

昭和50年度全国科学博物館協議会理事会、総会を開催

昭和50年度全国科学博物館協議会の理事会および総会が6月7日に国立科学博物館大会議室で開催された。

福田理事長から博物館の近代化にともない国際的にも博物館職員の訓練の実施等の機運も高まってきており、全科協の活動に対する期待もきわめて大きいものがある旨のあいさつがあり、引きつづき新入館園、館長交替館等の紹介ののち、議事にはいった。

なお、出席館は21館で委任状提出館が29館であった。主議題は、○昭和49年度事業報告および収支決算について、○昭和50年度事業計画および収支予算で、各議題の内容については当日配布された資料を出席できなかった館園にも別送しているので省略することとし、当日の総会で質疑応答の交わされた問題点について報告しておきたい。まず全科協博物館事業研究会の研究テーマ、開催場所について質議があったが、研究会のテーマは昭和46・47年度展示技術関係、昭和48年度教育活動関係、昭和49年度普及広報関係など博物館活動を分野別に一通り実施してきたが、現場に直接役立つ事柄をというこの研究会の趣旨にもとづき、今後は会員館園の意向を反映しながら展示技術関係に重点をおいて計画実施したい旨、事務局から意見が述べられた。また、会場についてはこの研究会が軌道にのるまでは東京でということ、これまで国立科学博物館で実施してきたが、そろそろ地方での実施も検討してみたいとのことであった。

○国立社会教育研修所主催の博物館職員講習（学芸員資格取得講習）については、全科協としてもこの講習会の発足当初から、企画、実施に協力してきたところであるが、受講資格をさらに広い範囲の人にも適用できないかとの意見があった。これについては、昭和49年度の講習から登録博物館または博物館相当施設に準ずる施設に勤務する者まで、広げられた経過もあり、今までもケースバイケースで努力したということでした承された。

また、つぎに、昭和50年度事業計画のうち、従来と特に違った点は、全科協ニュースの発行（発行回数6回・隔月発行）である。全科協ニュースはこれまで、会員館園の新しい展示紹介、特別展の紹介、展示技術等に関する質問、お願いコーナー、外国の博物館の情報提供、全科協北から南から、会員館園の紹介等を柱としてきたが、今年度から研究報告も含めたい旨提案された。

これはサイエンスミュージアム2号の原稿を募集して

きたが、応募がなく、しかし、1冊にまとまるだけの数はないが館園によっては苦勞してまとめられたものもあるようなので、これらが活字にならないということも惜しまれるという趣旨から、提出された研究報告は逐次ニュースに特に頁を設け掲載して行こうというものである。幸い、総会で承認されたので、早速本号から実施することとした。

また、このことに関連し、きわめて少額ではあるが、原稿料をあたらしく予算に積算されたので会員館園で行なっている展示教育活動等に関する博物館学的研究の成果をどしどしご投稿くださるよう、これを機会にあらためてお願いしたい。

また全科協の事業について、現在、科学系博物館の種類内容はきわめて多様化しており、科学博物館というものの概念、あり方について再検討してみる時機ではないかと思われるので、全科協のような科学博物館に関する専門家の集まっているところで委員会を作って検討したらどうかという意見が出された。席上ではただちに結論を出されなかったが全科協として、大いに考えなくてはならない問題であるように思う。

さらに昭和50年度収支予算については、収入支出に845,000円ということになっているが、現今の経済状況のもとでは、この経費で全科協として充実した事業を実施して行くことは困難であろうから少なくとも、会費を特定館を除き、10,000円と5,000円の2段階にするなどして会費を値上げしてはどうかという意見が出された。

これに対し、理事長から今年度は値上げを考えていないが、近い将来値上げすることになると思うが、その際協力して欲しい旨要望があった。

以上は、おもな質疑のあらましであるが予定された時間をはるかに上回って活発に意見が交わされ、事務局としても全科協に対する論評がきわめて大きいことを痛感した次第である。

なお、昭和49年度加入館（昭和49年度総会開催以降）

○農林省蚕糸試験場 ○福島市児童文化センターが加入して、昭和50年3月31日現在、会員館園数63館となり、さらに50年度分に、○船の科学館および大津市立科学館が新規加入し、会員館園数65館（うち購読会員4館）になり今後全科協への働きかけが期待される場所である。

全 科 協 北 か ら 南 か ら

全 科 協 へ の 一 提 言

徳島県博物館 田 中 正 陽

全科協が発足して、今迄、目ざましい発展をしてきています。本当に心強い限りですが、私は、私なりに、全科協に対して、常に考えていることを述べてみたいと思います。

全国科学博物館協議会は、昭和45年9月3日および10月5日に常任理事会、理事会を開催して、各種事業の専門的事項について相互の連絡機関として発足させるという観点から、おおよそつぎの諸点について意見が一致しました。(全科協ニュースVol. 1 Ⅷ1)とあり、その中の3. 当面つぎの事業を重点的に実施すること。のうち、

(1) 資料(文献資料を含む)の交換、貸借、譲渡などの斡旋、情報提供ならびに博物館資料の収集、展示に関する相互の協力をすすめる。

確かに、博物館紀要とか、展示解説書などの交換は、活発になって来ています。しかし博物館資料の収集等の相互の協力は、まだまだの感がします。

此処に一つ提案ですが、各種博物館が、その地域の資料を収集する時、例えば、徳島県では、勝浦郡の正木にダムが出来るのでトリゴニアが大分、水没するから、収集してきました。県立の博物館ですので、一応普通であれば、全部館の所有物となり、県の財産になるのです。しかし、半分位を館の所有にし、他の半分をトリゴニアが欲しい他の博物館の資料と交換できれば、両方の博物館の資料が増加するのではないのでしょうか。

全科協ニュースの中に、頁をさいて、当館にトリゴニア20ヶ譲りたいと記入し、各博物館がその地方の特色あるもので、余分の資料を、発表する欄を設けたらと思います。

又、当館には、ペニパナの標本がないので欲しいと発表すれば、余っている館から、その館へ寄贈又は交換できるというように「お譲りできる資料」や「譲ってほしい資料」の欄を設けていただければ、資料の収集に関する相互の協力ができるのではないかと思います。

展示に関するものでも、2～3年たてば展示物の交換をする時、パネル等、不必要になったもの等も、この方法によると、不必要な予算の浪費が防げるのではないかと思います。

なお、資料やパネルの交換や輸送の時、又は、次のべる特別巡回展にも通じることですが、博物館法第一章第九条に、国鉄による輸送に関する運賃及び料金についての規定がありますが、全科協の力によって、もっと便利にもっと安価になれば幸いと思います。

(2) 巡回展、教育活動実施など、館外教育活動に関する相互協力をすすめる。

毎年、特別展、テーマ展と、頭と、労力を駆使して、色々と、その地方特色(地方博物館)を生かした展示会を行なっていますが、展示するためには、その地方の特色ある研究業績や、独特のコレクション、資料、文献、研究者が必要です。

毎年、此の様な研究が地方博物館で出来るとは限りません。巡回特別展等、安価に出来れば、幸いと思います。今迄にも特別展をするには、博物館関係よりも、むしろ大学や、研究施設からの協力が必要であったといった事がありました。私も毎年、このことで、苦しんでいると同時に、生きがいを感じていますが、予算その他の関係で、やはり限界を感じます。

4. 科学博物館に関するニュース、教育活動または博物館的研究の成果の報告のために機関誌を発行する

全科協ニュースは、私達、地方博物館に勤務する者にとって、本当にエッセンスをあたえてくれています。諸外国博物館および国内博物館の展示紹介など興味はつきません。

例えば工作室(work shop)が必要であるとか、博物館は地域の人々の生活に結びついたものでなければならぬとか、欧米では、独特の実物や模型が沢山展示されているとか、近代科学に関する展示をめざしているとか、生命の科学(Life Science)の分野にまで博物館が手を出しているとか、私達の夢が世界のどこかで、実現していると思うたびに血がおどってきます。

色々と、思いつくままに述べて来ましたが地方博物館の独自性を発揮していきたいと思いますので、御指導及び、御連絡をお願いいたします。

アジアの博物館の現状について

去る6月23日、24日の2日間、パリで第32回国際博物館会議（I COM）諮問委員会（32nd. Session of the Advisory Committee）が開かれた。日本からはI COM日本委員会委員長でもある当協議会理事長福田繁が参加した。この会議の内容については、別に報告があるかと思うので省略することとし、ここではこの会議でインドのニューデリーにあるI COMアジア地域センターの所長である Dr. Grace Morley が、同地域センターの年次報告を行っているので、その概要を紹介しておきたい。その内容は、概括的なものであるが、アジア地域の博物館の現状の一端を知ることができ、これまで、この面に関する資料があまりないので参考になるかと思う。

報告は、I COMアジア地域センターの設置の経過や、現在実施している同センターの事業等にも触れているが紙面の関係から、I COMの立場からみたアジアの博物館の活動と現状および問題点等を中心に要約して紹介してみたい。

アジアにおける博物館活動 アジアの博物館活動の現状には両極端がある。1)日本、永年I COMのメンバーであり、1,000以上のあらゆる種類の博物館と例外的に高い博物館学的水準とをもっている。日本委員会を組織しており、アジア地区センターとも密接な連絡をとっている。そして、博物館事業について、博物館学にかなり充実した指導と助言を与えている。2)インド、300以上の博物館があり、一般的に博物館技術の高いレベルの博物館が多く、また博物館学のトレーニングコースや、博物館に関係する行政に協力するために、国やいくつかの地域の博物館協会を持っていて、I COMに対し、もっとも古くもっとも活動的な国内委員会がある。3)タイ、1948年からI COMのメンバーになっており、主として、考古学に関係した展示表現に特色をもった地方博物館が着実に発達している。しかし、民族学を含めることや、自然史や科学技術のための博物館（またはセンター）の計画も始まっている。4)インドネシア、1972年からI COMのメンバーで、ボゴールの植物園と標本館、バンドンの地質博物館など古い博物館が着々と改善されていて、自然史の博物館やセンターが際立っていることは、アジアでは例外的である。博物館学的レベルも好ましく、職員のトレーニングも整理されつつあり、新しい博物館を見出しつつある。5)イラン、長い間のI COMの加盟国で、古代の偉大なコレクションは有名である。民族学の資料も豊富であり、主としては考古学ではあるが、文化芸術省のもとに、首都や遺跡のある所で博物館を意欲的に改善している。また、美術や自然史の博物館

も、他の機関や研究所の管理のもとに特色のあるスケールで着手するばかりになっている。他の国々も、優れた博物館学的レベルの見事な国立の博物館や、行政的に統制された多種の博物館をもっている。ラオスやブータンのような小さな国も、最近博物館を創設している。カンボジアやベトナムは、考古学や美術のコレクションの豊富な名高い博物館（プノンペン、ダナン、サイゴンなど）があり、それらは、訓練された職員の不足や、今回の戦争で新しい問題に当面するなど困難な状況にもかかわらず、よく発達した。

アジアの博物館 アジアの博物館を展望すると、考古学と美術の博物館が優れていて、時には、それらの博物館だけが発展していることは不思議ではない。日本、インドネシアだけは例外である。日本を別にすると近代美術の博物館は、ニューデリーとバンコックにあるのみで稀である。また、民族学の重要なコレクションは、ジャカルタ、デンバサル、ニューデリー、マドラス、バンコック、チェンマイ、ナコンシータラマート、テヘラン、チッタゴン、カンディなど、いくつかの博物館にあるが彼等は、地域にとって、何が特別に重要な主題であろうか正しく考えることを始めていない。最近、独立した国では、彼等の独立運動や指導者を記念して、歴史の博物館を創設している。国の発展のために大きな役割を果たす科学技術の博物館は、日本では確立されており、インドでは、効果的なサービスを展開しているいくつかの博物館があるが、さらに、これとは別にライフサイエンスを博物館を発展させる計画を始めた。目下準備中のシンガポールのサイエンスセンターは、アジアでは立派なものである。（Museum, Vol. XXVI, No.2 参照）。

このほか、アジアの多くの博物館では、考古学や美術の資料にしても、自分の国のものだけに限られていて、隣接地域のものはあまり扱われていない。これは比較研究などをするためにも大きな障害となっているので、交換などにより、このようなことを少なくすることが望まれるという主旨のことも述べられている。

問題点 アジア地域のあらゆる博物館に共通の問題はかなりあって、これまでもアジア地区センターの会議でたびたび取りあげられてきた。おもな問題点は次のとおりである。1)、古美術品、その他の文化財の密売買、2)、保護、管理に必要なもの、3)、訓練された職員の不足、4)、博物館の維持改善のための財源の不備、5)、博物館に必要なもの、特に外国の技術書や定期刊行物入手するための外貨が制限されている（国によっては皆無である）こと。

博物館における情報サービスシステムに関する試み

産業安全技術館 東海林 菊夫

1 技術館に求められる情報サービス

「安全帽はどこで購入出来るか」「構造、規格はどうなっているのか」「屋外作業では、どのぐらいの期間使えるか」など、安全帽を例にとってみても、実に様々な質問が当館の窓口寄せられる。

産業安全技術館では、開設以来、安全資料の展示とあわせて安全に関する相談に応じて来た。近年、労働安全関係の法規改正や会社や工場の労働災害防止に対する関心の高まりから、寄せられる質問も広範で高度な内容のものが多くなる一方、安全に関する情報の生産量も他の分野同様、年々増大している。

このような背景もあって、安全相談体制の整備を早急に行なう必要があった。すなわち、従来の安全相談では、相談員の「記憶」をよりどころとして、文献やデータなどの関係資料を探し出していたが、それらの所在を「記録」し、速やかに引き出す方式を採用し、迅速に正確な情報の提供を行なおうとするものである。

検討の結果、ある程度の機械化を計った「産業安全技術館情報サービス・システム」を開発し、安全相談体制の整備とその活用を進めつつあるので、概要について報告したい。

2 安全の情報

一般的に博物館は、「もの」を収集整理し、調査研究し、展示し教育普及する機能を持つ。博物館で取り扱う

「もの」は、「実物」「レポート・論文などの文献」「写真やフィルム」など、色々な形態で存在する。これらの資料は扱い方によって、展示資料となり、保存や研究あるいは教育資料になる。何れの場合であっても、博物館における資料の大部分は、博物館利用者に何んらかの形で働きかける作用をもつものである。

博物館で扱う「もの」は情報の媒体であり、一般に公開されている博物館では展示や視聴覚資料などを媒体として、入館者に対しサービスを行なっているのである。しかしながら、所蔵はしていても公開されない資料は、特殊な場合を除きサービスの対象にはならない。これらをカバーし、展示資料に関連ある資料の収集、蓄積、利用の場合にも情報管理の必要が出てくるであろう。

さて、当館の場合、安全相談の内容は様々であることは前述したが、大まかに、次の様に分類することが出来る。

- (1)安全装置や保護具などの所在に関すること。
- (2)安全の条件に関するデータ等に関すること。
- (3)安全関係の業務（調査や教育など）を行なう機関に関すること。
- (4)安全対策の具体的方法に関すること。
- (5)その他

これらに対して、その所在やデータなど主に「記録」の形で保存できるものを「安全の情報」として取り扱うこ

ととした。すなわち

- (1)定期刊行物、研究報告、年報等の文献類で、必要と考えられる部分
- (2)安全関係用品、保護具等のカタログ類
- (3)安全データ等の参考資料
- (4)関係機関等に関する資料
- (5)その他

3 各種検索方式の得失

情報を収集し、分析・整理し蓄積したものから目的の情報を探索する方法には

- (1)マニュアル方式
- (2)カードセレクト方式

方式		電子計算機方式	カードセレクト方式	マニュアル方式 (ハンドソート)
区分				
価 格		高い	比較的安い	安い
維 持 費		高い	安い(カードのみ)	安い(カードのみ)
検 索 の 処 理 量		多量	3～5万件	少量
検 索 の 速 度		高速	600枚/分	1回100枚程度
検 索 の 多 元 機 構		容易	容易	かなり制約あり
使用上の制約	オペレーター	高度の訓練が必要 (専任者の選任)	専任者は必要としない	同左
	操 作	専門の知識が必要	簡単	同左
	時 間	かなり制約がある (専用機なら常時使用可)	いつでも使用可	同左

表1 検索方式の比較

項目により内容を分析し、原則として1情報について1枚のマーキングカードに所要事項の記録とマーキングを行なう。

マーキング済みのカードは、マーキングカードファイルに整理保管する。

(6)質問の内容分析と検索

情報の需要者から照会のあった質問は、係員が内容をマーキングカード分類項目により分析し、カードセレクトタのプログラム指示ボード上に所定のピン指示を行ないマーキングカードの検索を行なう。

検索の結果には、質問の内容に合致しないノイズを含んでいるので、係員は検索されたマーキングカードを見て、必要な情報だけを選び出す。

(7)出力

「産業安全技術館情報サービス・システム」の主な出力は、ノイズチェックを行なった結果選出されたマーキングカードまたは原情報資料の複写である。

5 マーキングカード分類表

(1)分類表の作成方針

分類表の作成にあたっては、次の11の観点から、整理、検索を行ない得る様にした。

①関連分野

情報の内容が、主にどの分野に属するかを識別するため、「産業安全」「労働衛生」「公害」「交通安全」「学校安全」「家庭安全」「消防」および「その他」に区分し、どの分野にも共通する場合には「一般」としてある。

②業種

①で大別した分野のうち、「産業安全」「労働衛生」に該当する場合に、どの業種にかかわる問題である

かを識別する。

③起因物

災害の原因となった「起因物」を識別する。

④事故の型

起因物による事故発生の形態がどのようなものであるかを識別する。

⑤環境

職場の作業環境条件が事故発生に大きな影響を与えること、あるいは公害等に関連して環境の問題が、近年とくに注目されているので、この項目を設けた。

⑥保護具

当館に寄せられる情報需要者の要求のうち、保護具について、相当の頻度があるので、細区分してある。

⑦内容

情報を内容の観点から区分しようとするもので、いわゆるキーワード的な考え方を採り入れ、産業安全等の情報の検索の重要な手がかりとなる「コトバ」78語を配列してある。

⑧資料の形

情報の媒体（主に印刷物）がどんな形態であるかを区分する。

⑨発行（所在）機関、その第1音、発行年

資料を生産した機関及び資料の所在する機関などを区分し、その機関名の第1音および資料が生産された年（西暦の末尾）を記録する。

⑩資料の所在場所

情報資料がどこに存在するかを区分する。

⑪編著者名の第1音

産業安全技術館情報サービス・システム		産業安全技術館情報サービス・システム		産業安全技術館情報サービス・システム		産業安全技術館情報サービス・システム	
一般	産業安全	労働衛生	公害	交通安全	学校安全	家庭安全	消防
0	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	31
32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47
48	49	50	51	52	53	54	55
56	57	58	59	60	61	62	63
64	65	66	67	68	69	70	71
72	73	74	75	76	77	78	79
80	81	82	83	84	85	86	87
88	89	90	91	92	93	94	95
96	97	98	99	100	101	102	103
104	105	106	107	108	109	110	111
112	113	114	115	116	117	118	119
120	121	122	123	124	125	126	127
128	129	130	131	132	133	134	135
136	137	138	139	140	141	142	143
144	145	146	147	148	149	150	151
152	153	154	155	156	157	158	159
160	161	162	163	164	165	166	167
168	169	170	171	172	173	174	175
176	177	178	179	180	181	182	183
184	185	186	187	188	189	190	191
192	193	194	195	196	197	198	199
200	201	202	203	204	205	206	207
208	209	210	211	212	213	214	215
216	217	218	219	220	221	222	223
224	225	226	227	228	229	230	231
232	233	234	235	236	237	238	239
240	241	242	243	244	245	246	247
248	249	250	251	252	253	254	255
256	257	258	259	260	261	262	263
264	265	266	267	268	269	270	271
272	273	274	275	276	277	278	279
280	281	282	283	284	285	286	287
288	289	290	291	292	293	294	295
296	297	298	299	300	301	302	303
304	305	306	307	308	309	310	311
312	313	314	315	316	317	318	319
320	321	322	323	324	325	326	327
328	329	330	331	332	333	334	335
336	337	338	339	340	341	342	343
344	345	346	347	348	349	350	351
352	353	354	355	356	357	358	359
360	361	362	363	364	365	366	367
368	369	370	371	372	373	374	375
376	377	378	379	380	381	382	383
384	385	386	387	388	389	390	391
392	393	394	395	396	397	398	399
400	401	402	403	404	405	406	407
408	409	410	411	412	413	414	415
416	417	418	419	420	421	422	423
424	425	426	427	428	429	430	431
432	433	434	435	436	437	438	439
440	441	442	443	444	445	446	447
448	449	450	451	452	453	454	455
456	457	458	459	460	461	462	463
464	465	466	467	468	469	470	471
472	473	474	475	476	477	478	479
480	481	482	483	484	485	486	487
488	489	490	491	492	493	494	495
496	497	498	499	500	501	502	503
504	505	506	507	508	509	510	511
512	513	514	515	516	517	518	519
520	521	522	523	524	525	526	527
528	529	530	531	532	533	534	535
536	537	538	539	540	541	542	543
544	545	546	547	548	549	550	551
552	553	554	555	556	557	558	559
560	561	562	563	564	565	566	567
568	569	570	571	572	573	574	575
576	577	578	579	580	581	582	583
584	585	586	587	588	589	590	591
592	593	594	595	596	597	598	599
600	601	602	603	604	605	606	607
608	609	610	611	612	613	614	615
616	617	618	619	620	621	622	623
624	625	626	627	628	629	630	631
632	633	634	635	636	637	638	639
640	641	642	643	644	645	646	647
648	649	650	651	652	653	654	655
656	657	658	659	660	661	662	663
664	665	666	667	668	669	670	671
672	673	674	675	676	677	678	679
680	681	682	683	684	685	686	687
688	689	690	691	692	693	694	695
696	697	698	699	700	701	702	703
704	705	706	707	708	709	710	711
712	713	714	715	716	717	718	719
720	721	722	723	724	725	726	727
728	729	730	731	732	733	734	735
736	737	738	739	740	741	742	743
744	745	746	747	748	749	750	751
752	753	754	755	756	757	758	759
760	761	762	763	764	765	766	767
768	769	770	771	772	773	774	775
776	777	778	779	780	781	782	783
784	785	786	787	788	789	790	791
792	793	794	795	796	797	798	799
800	801	802	803	804	805	806	807
808	809	810	811	812	813	814	815
816	817	818	819	820	821	822	823
824	825	826	827	828	829	830	831
832	833	834	835	836	837	838	839
840	841	842	843	844	845	846	847
848	849	850	851	852	853	854	855
856	857	858	859	860	861	862	863
864	865	866	867	868	869	870	871
872	873	874	875	876	877	878	879
880	881	882	883	884	885	886	887
888	889	890	891	892	893	894	895
896	897	898	899	900	901	902	903
904	905	906	907	908	909	910	911
912	913	914	915	916	917	918	919
920	921	922	923	924	925	926	927
928	929	930	931	932	933	934	935
936	937	938	939	940	941	942	943
944	945	946	947	948	949	950	951
952	953	954	955	956	957	958	959
960	961	962	963	964	965	966	967
968	969	970	971	972	973	974	975
976	977	978	979	980	981	982	983
984	985	986	987	988	989	990	991
992	993	994	995	996	997	998	999
1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007
1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015
1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023
1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031
1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039
1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047
1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055

[illegible]

検 索 さ れ た カ ー ド

情報資料の編著者が判明しているときに区分する以上の各項目の方針に合わせ、セレクト用カードに配列すると、前ページの様になる。

なお、カード設計にあたっては、検索されたカードの複写のとき、主な項目が一覧表の形になる様に、カードの上部2ロウ(行)をその記入欄に、またカードの右半分(40カラム)を、その他の必要事項の記入欄として使用している。

6 システムの運用

現在、カードの蓄積量が少ないこともあり、あまり活発にこのシステムは動いていないが、具体的な1例を紹介する。

＜質問・ワイヤーロープのクリップ止めの方法と間隔、および個数について知りたい＞

検索の結果、上の3枚のカードが選び出されたが、①と②はノイズで、③のカードが該当する文献であった。

なお、マーケティングカードには、この様に、マーケティングスペースのほか、必要事項が記入出来るスペースがある。表題に関する内容の記事とか関連事項の記録などが可能であり、このシステムの特徴の1つとなっている。

7 おわりに

博物館における情報サービスの問題については、関係者から相当以前より提唱されて来てはいる。しかし、具体的実施の例はあまり知られていない。実際、数多い博物館業務の中で、このようなシステムを完全な形で運用するには、それに要する予算、人員など膨大になる可能性があり、それなりに覚悟を必要としよう。

しかし、だからと言って、手をつかねていい筈はない。私たちは今、幼稚ではあるがこのシステムを開発し、多くの問題を抱えながらその活用を計ろうとしている。

情報需要者に有効な情報を提供するため、つねに新しい情報の収集とマーケティングカードの更新を必要とするだろう。「マーケティングカード分類表」の見なおしも必要になるだろう。また、情報の蓄積量が膨大になった場合の対策とか検索精度や検索スピードの向上のため、より高度のシステムを開発することも必要となるであろう。

これらの問題を解決するために、マイクロフィルムの導入とか、検索精度の向上などについて研究し、より充実したシステムとするため、今後も努力したいと考えている。

本報告にあたり当館安全技術課長 香坂敏夫氏のご指導をうけたことを感謝するものである。

(参考文献)

1. 橋本昌幸：情報検索のABC，日本放送出版協会
2. タナック文献検索システム研究会編：文献検索，タナック㈱
3. 吉村典夫：情報から見た理工学博物館における12の問題，第5回学芸員研究集会報告書（日博協）
4. 吉村典夫：情報と博物館，第19回全国博物館大会報告書（日博協）